

氏名	渡 辺 明 治
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 3 3 0 号
学位授与の日付	昭和44年 9 月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	肝硬変症における膵病態に関する研究 第一編：肝硬変症の膵外分泌機能について 第二編：肝硬変症の膵障害と鉄吸収について 第三編：膵液の鉄吸収に及ぼす影響について
論文審査委員	教授 小坂 淳夫    教授 平 木    潔    教授 大 藤    真

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝硬変症(54例)の膵外分泌機能をSecretin試験を用いて検索し、その56%に膵機能異常を認め、膵液重炭酸塩濃度の低下がその特徴的所見であることを指摘した。肝Siderin 沈着、肝細胞肪変性、糖代謝異常、血清鉄上昇などを認めた症例の膵機能異常頻度はさらに高率であった。又本症にしばしば合併する脂肪便と膵障害との関係及び膵の組織学的変化と機能障害との関連についても検討し、考按を加えた(第1編)。肝硬変症に併存する膵障害と鉄代謝異常との関連を示唆する成績を第1編で得たので、肝Siderosis、血清鉄上昇などを有する本症の膵外分泌機能を検討し、あわせて鉄吸収試験、十二指腸pHの測定をおこなった。その結果、本症の鉄吸収増加の1因がintraluminal factor としての、膵障害による膵液重炭酸塩濃度低下にもとづく十二指腸pHの低下によると考えられた(第2編)。この結論は犬十二指腸による鉄吸収に及ぼす膵液の影響を観察した実験結果に一致するものである(第3編)。

## 論文審査の結果の要旨

肝硬変症における脾病態をまず著者の予め検討したsecretin試験により研究し、脾機能異常、とくに脾液重炭酸塩濃度の低下をみとめ、次で合併する肝siderosisの成因は脾障害により生じた前記の脾液のPHの低下により十二指腸よりの鉄吸収の昂進を来した結果と考えられるとの成績をえている。

これらの成績は新知見であり、価値あるものと評価される。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。